

異動届には保険証や

年金手帳も添えて

みなさんの日常生活では、とを一本にまとめて行なうた住民としての立場や住所、世帯のことなどについて、役場の証明を必要とするものが多くあります。また役場側としても、みなさんに行きとどいたサービスを行なうためには、選挙のことや、義務教育、予防接種、お米の配給、それに国民年金、国民健康保険のことなど、みなさんに関するあらゆることを正確に記録しておくことが必要不可欠です。そこで、このような

この住民基本台帳法には転出届の制度が設けられ、みなさんが住所を変更する場合は、あらかじめ転出する旨届け出て、転出証明書を受けることになっていきます。これは今まで住んでいた市町村での状況を新しい市町村へ十分連絡し、転入に伴ういろいろな手続きを間違いない行なう

ためのもので。今までは国民年金や国民健康保険の住所変更は住民登録とは別に届けをしていましたが、これからはこの転出証明書に国民年金や国民健康保険のことも記載されますので、この転出証明書に年金手帳や保険証を添えて届ければ、一つの窓口で用が足りることになります。このため手数料や時間も省かれ大変便利になったわけですね。

そのようなわけで、これからは転出転入の場合は、異動証明書や国民年金手帳及び国民健康保険証がありませんと、住所変更の手続きができませんので、年金手帳、保険証など忘れずにご持参下さい。

ふる里の話題

恵比寿屋の仇討 (4)

耳無ししの権十

「彦根の殿様が桜田門で殺されたそうだ」
「水戸の御家来衆がやったんだぞうだ」
「いや、薩摩のおさむらいだということだ」
そんな噂が上総の国横芝村に伝わってきた頃、世の中は騒然として落つきを失い、刹那的享楽を求める風習が強くなり、百姓町人の中では賭博

渡世に走る者が横行した。ここは銚子街道にそった恵比寿屋という旅館屋、その一室で盆ごさを間にはさみ、いま賭場が開張されている。両側に並んだ数十の目は、片肌脱いだ中盆の振る賽壺に吸いよせられ、室の片隅では首にかけて豆絞りの手拭と、禪一本が身上という格好で、耳無しの権十という馬方くずれの博徒が毛脛を抱きながら震えている。きつと賽の目に見

今年三月の節句だというのに江戸では大雪が降ったという寒さであり、自業自得とはいえないながら、禪一本の裸姿は哀れというほかはなく、半分切れ落ちた耳元の傷あとが紫色に変わって見えた。「畜生ッ！」



銚子街道沿い恵比寿屋のあったあたり。今はその面影を偲ぶよすがもない。

放されて身ぐるみ剥がされてしまったのであろう。せめて二分、いや二百文もあれば……」とつぶやいていたが、いつの間にか姿は消えていた。暫らくして帳場の方から、「誰か……誰か来てくれよオ！」とけだまししい女中の叫び声がした……

帳場には恵比寿屋の主人が両手で虚空をつかみ仰向けに倒れていた。首には豆しぼりの手拭が巻きつき、銭箱はひっくり返されてビタ銭が三、四枚散らばっているのは押込みか、強盗の仕業か。死体のそばには五才位の女の子が「耳のない人がやった」と泣きじゃくっていた。

その後時勢の変転は目まぐるしく、安政から万延、文久、元治、慶応と僅か六年間に四回も年号が改まり、更に明治と改元されてその十一月、遠州掛川から太田備中守が入国され、「乱世の統治には厳罰が必要である。爾今刃物をもって金銭を奪いたる者は例え三文なりとも斬首すべし」と布告を出し、事実、刀でおどして奪った財布の金子は三文であったが、掟どおり打首になった賊があつたので、太田様の三文首といわれて、今も語り伝えられているという。

「耳のない人……」という五才の子供の言葉と、見覚えのある豆絞りの手拭から、耳無し権十の仕業と見当はついたものの、権十はつかまらずそのまま行方が判らなくなってしまった。

人の噂も七十五日、この騒動も何時か人々から忘れられ、恵比寿屋も主を失ったまま女中頭おなみが後見役となつて、娘おなつの世話をしな

計 三一、八二六
福祉年金では
人数 金額(千円)
老令六二〇 一〇、八四〇
障害 四七 一、四一〇
母子 一〇 二六七
計 六七七 一二、五一七
なおお振出制年金の加入者で老令年金をもらう資格のできるのは、二年半先の昭和四十六年四月からです。

(未完)

国民年金の受給者 708名1,430万円

九月末現在	在の調べに	出制年金と福祉年金を合せて	計	三一、八二六
よると、横	芝町では国	民年金に加入している	人数	金額(千円)
方は、任意	加入者も含	めて四、四	老令六二〇	一〇、八四〇
三六人で保	険料額は一	千六十二万	障害	四七 一、四一〇
七千円で、			母子	一〇 二六七
			計	六七七 一二、五一七
			なおお振出制年金の加入者で老令年金をもらう資格のできるのは、二年半先の昭和四十六年四月からです。	